

令和 7 年度  
「運営に関する計画」

大阪市立長原小学校

令和 7 年 4 月

大阪市立長原小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿とは、一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することである。

これまでの「正解主義」や「同調圧力」への偏りから脱却し、子どもたちの思考を深める「発問」を重視していくことや、子どもたち一人一人の多様性と向き合いながら一つのチームとしての学びを高めていくことが重要である。誰一人取り残すことのない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向け、一人一人の児童が生涯にわたって能動的に学び続けることをめざしていく必要がある。

本校のスローガンは「みんながつくる みんなの学校 長原小」であり、「みんな＝自分」として、「当事者意識」を大切にしている。学校教育目標は、「子どもも大人もいきいきしている学校」であり、キーワードは、「笑顔」「元気」「楽しい」の3つである。そして、「子どもに育みたい3つの力」として、

一つ目は、「自分も人も大切にする力」(「思いやり」「自信」「自分が好き」「自尊感情」)であり、二つ目は、「自分で考え、行動する力」(「自分らしく」「主体的」「自分の言葉で語る」)であり、三つ目は「自分からチャレンジする力」(「夢」「目標」「あきらめない」「やりがい」)を掲げ、子どもも大人もそれぞれの力を高めている。

こうした「子どもに育む力」を常に意識しながら、教科指導や生活指導など、学校生活のあらゆる場面で、その実現に向けて教育活動を進めていく。なかでも、「安全対策」については「子どもの命を守る」ことを最優先課題として取り組んでいく。また、「学力向上」については、「わかる・できる」＝「楽しい」の原点を肝に銘じて、日々の授業力向上に取り組んでいく。「体育的活動」については、健康であることを第一として、運動能力がバランスよくるように日々の体力向上に取り組んでいく。また、「読書活動」は、「本は財産」と言われるごとく児童にとって貴重な経験の場になるため、児童が数多くの本にふれることのできる活動に取り組んでいく。

そして、「めざす学校の姿」は「学校と家庭と地域がひとつになって『自己肯定感』をもつ子どもを育てる教育活動を推進する」ことである。「自己肯定感」を高めることは大切な課題であり、その実現に向けては、「自己有用感(あなたがいてくれて嬉しい・あなたが必要))」を持たせることを一つの手立てとしていきたい。また、「授業を開く」や「地域に開く」など、学校が常にオープンに家庭や地域等との連携・協働した教育を推進することは必須である。常に子どもを真ん中にして、学校と家庭と地域をつなぐことができる学校運営に取り組んでいく。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- ①令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。
- ②令和7年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。
- ③令和7年度末の学校アンケート（子ども）の「自分も人も大切にしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ④令和7年度末の学校アンケート（子ども）の「自分からチャレンジしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ①令和7年度の小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を、35%以上にする。
- ②令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。
- ③令和7年度末の学校アンケート（子ども）の「自分で考えて行動している」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- ①令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- ②令和7年度の教員の一人当たり平均時間外勤務時間の累計平均時間を12時間以内にする。
- ③令和7年度末の学校アンケート（サポーター）において、「教員は子どものことをよく考え、明るくいきいきと関わっている。」の肯定的な回答をする割合を95%以上にする。
- ④令和7年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的な回答をする教職員の割合を90%以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- ①令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。
- ②令和7年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。
- ③令和7年度末の学校アンケート（子ども）の「自分も人も大切にしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ④令和7年度末の学校アンケート（子ども）の「自分からチャレンジしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ①令和7年度の小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当

てはまる」と回答する児童の割合を、35%以上にする。

②令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

③令和7年度末の学校アンケート（子ども）の「自分で考えて行動している」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。

**【学びを支える教育環境の充実】**

①令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。

②令和7年度の教員の一人当たり平均時間外勤務時間の累計平均時間を12時間以内にする。

③令和7年度末の学校アンケート（サポーター）において、「教員は子どものことをよく考え、明るくいきいきと関わっている。」の肯定的な回答をする割合を95%以上にする。

④令和7年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的な回答をする教職員の割合を90%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

## 大阪市立長原小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【安全・安心な教育の推進】</b> ①令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。 ②令和7年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。 ③令和7年度末の学校アンケート(子ども)の「自分も人も大切にしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 ④令和7年度末の学校アンケート(子ども)の「自分からチャレンジしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ・職員室に情報が集約されるよう、どんな些細なことでも何かあれば職員室に伝えることや「全児童確認ボード」を活用して、日々の児童情報を共有する。 ・「ミマモルメ」の全保護者の登録を図る。	
指標 ・年度末の学校アンケート(サポーター)において「学校は問題が起こったときには迅速に対応している」の肯定的な回答をする割合を95%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ・道徳教育やキャリア教育、人権を尊重する教育(「ちがいを認め合う実践」)などを行い、自己を見つめ、自己肯定感を高める学習を行う。	
指標 ・年度末の学校アンケート(子ども)において「自分にはよいところがある」の肯定的な回答をする割合を80%以上にする。 ・年度末の学校アンケート(子ども)において「自分も人も大切にしている」の肯定的な回答をする割合を90%以上にする。 (「校長経営戦略支援予算活用」)	
取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ・学年に応じた「体験活動」(1年「生活科の体験学習」「昔あそび」、2年「商店街見学」3年「今昔館」4年「大阪市立科学館」5年「読売新聞社」6年「ピース大阪」「大阪歴史博物館」等による体験や見学を通じて、「長原タイム」と関連付けながら、キャリア教育の充実や情操豊かな心を育てる。 (「校長経営戦略支援予算活用」)	
指標 ・年度末の学校アンケート(子ども)において「体験学習や社会見学で積極的に活動することができる。」の肯定的な回答をする割合を90%以上にする。	

<p>取組内容④【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童昼会や児童集会、運動会や児童会活動などの各種学校行事で「自分から自分らしく表現する」ことに子どもも大人も自分からチャレンジする。</li> </ul> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末の学校アンケート（子ども）において「自分からチャレンジしている」の肯定的な回答の割合を 90%以上にする。</li> </ul>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

## 大阪市立長原小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>①令和7年度の小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を、35%以上にする。</p> <p>②令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。</p> <p>③令和7年度末の学校アンケート（子ども）の「自分で考えて行動している」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>・「本につかる朝（読書タイム）」、「ドリルタイム」、「自学ノート」、「長原タイム（探究的学び等）」「哲学対話」の活用を行い、基礎学力の向上とともに、「学びに向かう力」を高める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・年度末の学校アンケート（子ども）で「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の肯定的な回答をする割合を82%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>・「なわとびタイム」や「かけ足タイム」などを実施したり、体育の授業で体を動かす時間を十分に確保したり、休み時間には外で体を動かす機会を増やしたりして、運動を楽しむ活動を充実する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・年度末の学校アンケート（子ども）で「運動やスポーツをすることが好きである」の肯定的な回答をする割合を85%以上にする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

## 大阪市立長原小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【学びを支える教育環境の充実】</b> ①令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 ②令和7年度の教員の一人当たり平均時間外勤務時間の累計平均時間を12時間以内にする。 ③令和7年度末の学校アンケート(サポーター)において、「教員は子どものことをよく考え、明るくいきいきと関わっている。」の肯定的な回答をする割合を95%以上にする。 ④令和7年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的な回答をする教職員の割合を90%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① <b>【基本的な方向6 教育DXの推進】</b> ・1人1台端末の環境を活かし、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取り組みを行う。(「がんばる先生支援事業活用」) ----- 指標 ・年度末の学校アンケート(子ども)において「毎日、学習者用端末(タブレット)を操作しましたか。」の肯定的な回答をする割合を84%以上にする。	
取組内容② <b>【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b> ・「時差通勤制度」の有効活用や、退勤BGMを流すなどして、毎日セット時刻を午後5時30分に設定し、タイムマネジメントを意識する働き方改革を行う。 ----- 指標 ・令和7年度の教員の一人当たり平均時間外勤務時間の累計平均時間を12時間以内にする。	
取組内容③ <b>【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</b> ・「地域の学校」として、NOS(Nagahara Open School)に取り組み、「いらっしやい長原の先生」や「長原チャンネル」や「長原ファーム」などを通して、学校を地域に開き、子どもと大人がともに学ぶことを推進する。 ----- 指標 ・年度末の学校アンケート(サポーター)において「学校は子どもたちのために様々な取り組みを積極的に行っている。」の最も肯定的な「当てはまる」の回答をする割合を85%以上にする。	
取組内容④ <b>【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b> <b>【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b> ・「新たな教師の学びの姿(主体的・自律的・常に学び続ける・個別最適な学び・協働的な学び)」に基づく研修(研究)により、いきいきとやりがいを持って自己	



成長することができ、学校組織を活性化する。（「校長経営戦略支援予算活用」	
<div> <div>指標</div> <div>           ・年度末の学校アンケート（サポーター）において、「教員は子どものことをよく考え、明るくいきいきと関わっている。」の肯定的な回答をする割合を 95%以上にする。         </div> </div>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	